

00 : 15 日本では、「礼に始まり、礼に終わる。」

00 : 27 前時の復習…本時でのねらいを達成するために行うが、あまり時間をとらないようにする。たくさんの場合を視覚的に捉えさせるために、パソコンで動きのある画面を使って説明する。

課題1

01 : 33 自主的に考えさせるために、教科書は閉じさせておく。

02 : 17 生徒の興味・関心を高めるため2人の生徒の名前を使って授業の導入を図る。また、授業の雰囲気をもてらるくする。

03 : 44 生徒一人一人が課題意識をもてるよう全員に必ず予想させる。

04 : 08 各自が考える時間を区切って、集中して取り組ませる。

05 : 00 机間指導…2人の教師（T1・T2）により、予想の立たない生徒を支援・援助する。

- ・ 前時を想起させる。
- ・ 励ましながら、誉めながら行う。

07 : 10 個から小集団学習へ
個に応じた指導（学習スタイル）

- ① 教師に教わりたい。
 - ・ できた生徒…T2
 - ・ 見当の付かない生徒…T1
- ② 友達と相談したい。
- ③ 自力解決したい。…ヒントカードの利用

09 : 45, 12 : 22, 14 : 22 見る方向を変えること（首を右に傾ける、ノートを左に回す等）により、前時の学習内容が使えることに気付かせる。

- 13 : 35 問題解決できた生徒に答案を黒板に書かせ、発表の準備をさせる。
- 19 : 40 小集団学習から一斉学習へ
発表を聞く時間。作業を止めさせ、発表者を注目させる。きちんと
けじめをつけさせる。
発表者に支援・援助を行い、自信をもたせる。
- 21 : 06, 22 : 27 発表者に拍手を送り、全員で賞賛する。
- 22 : 57 各自が考え出した方法を確認し、できたこと、一所懸命考えられた
ことを賞賛し合う。

課題2

- 23 : 45 各自の考えをもたせるよう支援、援助を行う。
机間指導のポイント
(1) 解けていない生徒に対して
① まず、四角形を三角形2つに分けさせる。
② 底辺(対角線)に平行で、頂点を通る直線を引かせる。
(2) 解けた生徒に対して
・ 他の方法がないか考えさせる。
- 26 : 50 個から小集団学習へ
個に応じた指導(学習スタイル)
・ できた生徒…T2
・ 分からない生徒…T1
○ 答えは1つではなく、できるだけ多様な考えを見付けさせたい。
◎ さらに、できる生徒には、何通りの考え方があるか考えさせたい。
- 31 : 50 8通りすべて見つけられた生徒には、黒板に答案を書かせる。
- 36 : 40 板書している生徒にも支援・援助を行う。

- 44 : 46 8通り見つけられた生徒には、発展学習として、五角形を三角形に等積変形できないか考えさせる。
- 46 : 54 四角形に記号を振ることの便利さに気付かせる。
- 47 考え出した方法を挙手させ確認し、生徒に満足感や成就感を与える。
- 48 : 40 本時の学習内容を、パソコンで視覚的に再確認する。
- 50 : 00 興味・関心のある生徒に発展的課題を与える。宿題とし、オープンエンドとする。
- 50 : 25 授業で、課題解決に意欲的に取り組めたことを賞賛する。
- 50 : 48 あいさつをきちんとさせる。

後記

現在、本校では、メインとサブによるT・T（ティーム・ティーチング）から習熟度別クラス編成による学習活動を行っている。